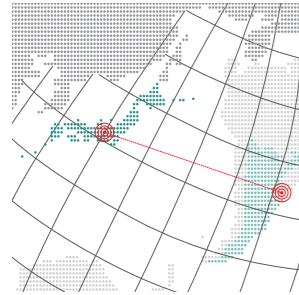


屋根造形



ANTIPODAS 10
アルゼンチンの設計課題を地球の裏側である日本でやるということの意義を考えた。どのようにコンテキストを読み解くかが思考の焦点となった。



タンポポの種
敷地には訪れたことがない。未経験の地でコンテキストを読み込むことは不可能である。しかし、風景のきっかけとなる種は植えることができる。



綿毛の傘
まず、私たちは綿毛の傘をイメージした屋根を幾何学形状の連続で試みた。ここでは、それぞれの屋根が複数重なるようなパビリオンを考えた。



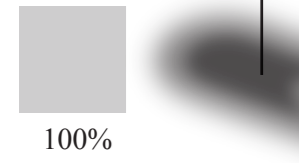
花
再び敷地の写真を見た。する再び敷地の写真を見た。する風景の種としてのモニュメント、公園の北にあるモニュメントに目が止まった。この公園の風景の種は、モニュメントだったのである。



風景への成長
風景の種としてのモニュメント、公園の北にあるモニュメントに目が止まった。この公園の風景の種は、モニュメントだったのである。曲線で切り欠くことのできる立体造形に着目した。

影の質

不透明度 100%
日陰で涼しく、人々の憩いの場所。人の密度が高く、人の流れも遅い。長く留まれる場所。



不透明度 50%
半透明の素材によって完全には日差しを遮らず、拡散光が優しい光の空間を創ります。



sky
フレームによって領域が創られた空間。屋根を覆う部材はなく、空と連続した場所。

